

【OIE 情報】 イギリスにおける牛海綿状脳症（BSE）の発生について

イギリスにおける牛海綿状脳症（BSE）の発生について、OIEへ緊急報告がありましたのでお知らせいたします。

なお、イギリスから輸入される牛肉等については、食品安全委員会によるリスク評価結果を踏まえ、条件が設定されています。

出典：OIEウェブサイト

- ・ 疾病発生状況（2016年3月25日付け）

http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=28331

- ・ BSEリスクステータス

<http://www.oie.int/animal-health-in-the-world/official-disease-status/bse/lossreinstatement-of-status/>

（OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。）

【概要】

- ・ 発生数：1件（緊急報告）
- ・ 発生日：2018年10月2日
- ・ OIEへの報告日：2018年10月19日

【発生状況】

- ・ スコットランド

【動物種】	【感受性動物数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
牛	1	1	1	0	0

- ・ アバディーンシャー地方において、5歳牛がBSEの単発症例と診断された。
- ・ 当該動物は農場で死亡し、死亡牛を対象に実施される検査により陽性が判明した。
- ・ 食肉に供される牛ではなく、食品流通網には入らなかった。そのことから、人間の健康被害の恐れはない。
- ・ 当該牧場の他4頭に対し、予防的殺処分が行われた。

【疫学情報】

- ・ 感染源を特定するための疫学調査が実施されており、結果が出ればイギリス当局より発表される予定。
- ・ イギリスはBSEに関し警戒を続けており、公衆衛生及び家畜衛生を維持するため、飼料を通じた感染を防ぐため家畜への動物性たんぱくの給餌を禁止し、消費者の健康被害を防ぐためと殺時のSRM（特定危険部位）を除去、BSEリスクレベルを監視し制御方法を定期的に確認する。

【対応】

- ・ トレーサビリティ
- ・ 当該動物由来製品の公的処理
- ・ 死体、副産物及び廃棄物の公的処分
- ・ 患畜を治療対象としない

【診断】

- ・ 診断施設：英国動植物衛生庁（OIEリファレンス研究所）
- ・ 診断方法：ウエスタンブロット：陽性（2018年10月18日）

【参考】発生地図

イギリス
スコットランド
アバディーン州
2018年10月2日
牛1頭 定型

